



ナ・デックスレポート
第63期 中間報告書
平成24年5月1日～平成24年10月31日

証券コード：7435





Customer First × One-Stop Solution

投資家のみなさまにおかれましては、日頃より当社事業へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社は、単なる商社ではなくメーカーとしてのコアを持った企業として長年蓄積された豊富なノウハウを持つコア技術(=メーカー)に、産学官連携などによる研究機関との協業に加え、他社の技術を融合させる事(=商社)で、世の変革をリードできる「ソリューション」を提供してまいりました。

これからも、「カスタマーファースト」「お客さま第一主義」を基本とし、限界まで挑戦する意識を持って仕事に取り組み、お客さまのために頑張りぬく会社、人でありたいと思っております。

投資家のみなさまにおかれましては、引続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 太田 善教

「見える化」の促進と同時に、次の飛躍に向けた新たな取組みを進めています。



上半期の事業環境と営業状況についてお聞かせください。

国内の経済情勢は、震災の復興需要やエコカー補助金等の政策効果を受け、緩やかな持直しの動きを示したものの、欧州債務危機の長期化や中国経済の減速などによる懸念が拡がり、先行き不透明な状況となっています。

その中で、自動車関連業界は堅調に推移し、生産活動が活性化するとともに、当社の商流においても機械設備の需要が拡大しました。一方、非自動車分野の事業環境は、電子

関連・セラミックス関連の大手顧客における設備投資抑制が続くなど、厳しい状況となりました。

当社は、自動車関連企業向け機械設備の拡販に努めつつ、自社製品であるウエルドシステムの海外案件に注力していきました。組織面では、営業部門を「エレクトロニクス・コンポーネント」「ウェルディング・システム」「FAシステム」の3事業部に再編した上で営業活動の「見える化」を促進し、お客さまが本当に求めているものや当社に対する満足度を的確に捉える体制を整えました。

さらに、営業3事業部および管理部門、製造子会社の開

発・製造部門、海外子会社を含めた形で、全社を横串にしたプロジェクト会議を機能させ、その連動効果により、特にお客さまの海外生産展開への対応力を高めていきました。

その結果、上半期の営業成果としては、国内における自動車関連企業向け機械設備の受注拡大に加え、中国およびタイにおけるウエルドシステムや組立機械、電子・電気部品販売を大きく伸ばすことができました。これにより、上半期の連結業績は期初予想を上回り、前年同期比で増収増益となりました。

※業績の詳細については、6～8頁をご参照願います。

Q 現在進行中の新たな取組みについて ご説明願います。

お客さまに対し、ナ・デックスという会社がどのような商材およびサービスを提供できるか、よりわかりやすく明

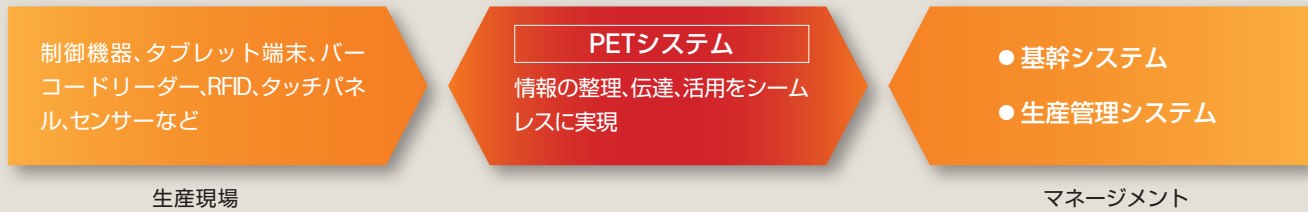
確に伝えていくための取組みとして、当社は今、本社ビル1階にショールームの設置を進めています。この本社ショールームは、エレクトロニクス・コンポーネント事業のアピールに特化し、従来の技術センター内ショールームによるウェルディング・システム事業、FAシステム事業のデモンストレーションと同様の訴求効果を担うものです。

本社ショールームは当初、年内の完成を目指していましたが、生産性向上や高効率化、省エネルギーといったソリューションを実証・検証するための機能を拡充し、来年2月にオープンする予定です。

一方、製造子会社の株式会社ナ・デックスプロダクツでは、生産現場の「見える化」を促進し、生産効率の改善と同時にお客さまへの情報公開を果たす「PET（生産履歴追跡）システム」を昨年に自社開発・導入しました。当期はその利用拡大を進めています。

FOCUS // 工場現場を「見える化」、引合い多数の“PETシステム”

現場と経営をリアルタイムでつなぐとともにトレーサビリティを管理することで問題に迅速に対応し、納期、コスト、品質を改善させる工場情報ソリューションです。



トップインタビュー

PETシステムは、材料の仕入れから生産、検査、梱包、出荷までの工程進捗を個別に品番管理することで、生産システムの品質確保に重要な役割を果たし、ナ・デックスプロダクツの生産現場においては、直行率(全工程の検査を1回で通過した製品の割合)の向上と製品不良の低減をもたらしました。また、Web上の特設サイトで生産進捗を公開することで、お客さまは発注された製品の納期を正確に把握することもできます。

今後は、材料の納入状況や修理状況および製品の故障履歴など、過去の情報のデータベース化等を進め、システムの機能を強化するなど、さらに進化させていきます。

PETシステムは、利用するお客さまから極めて高い評価をいただいております。ナ・デックスプロダクツの生産現場に対するお客さまの信頼を高め、取引の拡大と囲い込みに寄与しています。また、自社生産設備への導入を求めるお客さまに対しては、ITソリューション商材としての販売も行っています。

もう一つの新たな取組みとして、ナ・デックスプロダクツを主体としたレーザ研究センター（福井県敦賀市）の開設です。これは、当社グループと大阪大学接合科学研究所ならびに福井県の産学官連携による、民生向け大出力レーザの最先端技術の開発を主眼としたプロジェクトです。同センターは来年5月の操業開始を予定しています。

本プロジェクトが目指すのは、世界最大出力の100kWレーザによる高効率・高品質な溶接加工技術の研究です。これにより、従来は多層溶接を必要としていた300mmクラスの厚板を1回で(ワンパス)溶接することが可能となり、造船、船用大型エンジン、橋梁、海洋構造物、風力発電システム



など幅広い分野の加工において、大きな発展が期待できます。

※レーザ研究センターについては、5頁を合わせてご参照願います。



通期の見通しと今後の展開について お聞かせください。

前述のとおり、上半期の業績は計画値を上回ることができましたが、下半期以降の事業環境については、様々な要素による影響が懸念されています。

国内では、エコカー補助金の9月終了に伴い、来期にかけて自動車関連企業の機械設備需要が減少していくものと予想しています。その中で当社は、お客さまの海外生産シフトへの対応をさらに強化することで受注を確保すべく、世界共通でものづくりを展開するための取組みを、お客さまとともに進めていきます。特に今後は、お客さまの現地

生産の円滑化を意識した商材供給やエンジニアリングサポートに一層力を入れていく考えです。

一方、中国では、反日感情の高まりによる日系自動車関連企業への影響が拡大し、明確な見通しが立たない状況となっています。今後は非自動車分野の取引先を拡充し、業績の拡大と安定化を図ってまいります。また、タイでは、洪水復興による需要が上半期で収束しておりますが、引続き旺盛な需要が見込まれ、ウエルドシステムの新規案件の獲得はもとより、自動化設備の提案にも注力していきます。

以上の状況を踏まえ、通期の連結業績については、今のところ期初の予想数値を維持し、売上高189億円(前期比4.8%増)、営業利益7億円(同15.9%増)、経常利益8億6千万円(同5.1%増)、当期純利益7億円(同109.7%増)を見込んでいます。

Q 投資家のみなさまへのメッセージをお願いします。

新経営体制の発足から9ヶ月が経過しました。その間、収益力の向上と財務体質の強化に努めるとともに、健全で透明性の高い企業経営を確立すべく、コーポレート・ガバナンスの強化と社風改善に取り組んでまいりました。その成果は着実に表れてきています。お客さまからより一層のご信頼をいただける企業を目指し、引続き全社的な改革意識の浸透を図ってまいります。

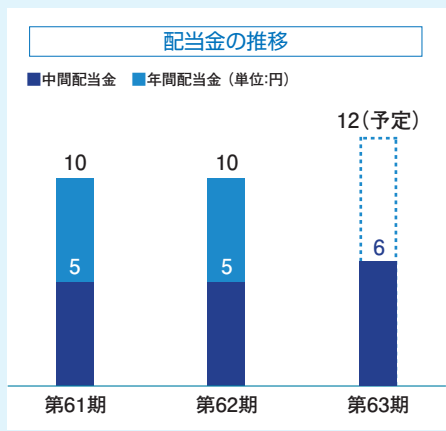
投資家のみなさまにおかれましては、今後とも当社事業への長期的なご支援を賜りますよう、よろしくご申し上げます。

株主還元方針に関する考え方

当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させることにあると考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記基本方針をふまえて、当事業年度の業績を勘案して、1株につき12円(うち中間配当6円)の配当とする予定であります。



トピックス

福井県にレーザー研究センターを設置

世界最大出力100kWレーザーによる
高効率・高品質な溶接加工技術の研究

ナ・デックスグループは、福井県のご協力を得て、大阪大学接合科学研究所の技術支援のもと、福井県敦賀市にレーザー研究センターを開設することといたしました。今後ナ・デックスグループは、レーザー研究センターをはじめとするレーザー事業を、グループ一体となって推進してまいります。



福井県への貢献

- 最先端技術開発の推進による地元産業の活性化
- 企業誘致と雇用の確保
- 産学官連携によるレーザー加工技術に関する研究開発の推進

福井県

大阪大学接合
科学研究所ナ・デックス
グループ

今後の大阪大学接合科学研究所の関わり

- 最先端技術開発の推進
- 産学官連携の場における技術支援
- レーザー加工技術に関する人材育成

レーザー溶接の優位性

レーザー溶接はレーザーを一点に集中させることにより圧倒的なパワー密度を創り出し、高速・高精度・低ひずみな加工ができます。また、溶接・切断・焼入れ・表面処理等多彩な加工が可能です。厚い板を1回で(ワンパス)溶接することが可能であり、工数の削減のみならず、省エネルギー効果による二酸化炭素削減効果も期待されています。

研究テーマ

- | | | | | | |
|---|-------------------|---|---------------------|---|-----------------|
| 1 | 300mm厚板
ワンパス溶接 | 2 | 大型鉄骨設備・
構造物の現地加工 | 3 | パイプライン
などの接合 |
|---|-------------------|---|---------------------|---|-----------------|

ナ・デックスグループの狙い

- ▶ 大出力レーザーによる最先端加工技術の開発
(世界最大出力100kWレーザー)
- ▶ 大出力レーザーを中心とした生産設備事業の拡充
(レーザーインテグレーター)
- ▶ レーザ加工技術による国内産業の活性化(地域雇用の創出)

連結経営成績の概要

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、震災の復興需要やエコカー補助金の効果などが見られたものの、欧州債務危機や中国経済の減速などにより、景気の持直しの動きが一服しており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要得意先である自動車関連企業につきましては、設備投資に増加基調が見られました。

このような経済環境のもとで、当社グループは、自動車関連企業向けの機械設備の拡販に注力し、また、自社製品であるウエルドシステムの海外案件の取組みを強化したことで、概ね計画どおり推移しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は86億9千9百万円と前年同四半期に比べ3億2千5百万円(3.8%)の増収となり、営業利益は3億5千万円と前年同四半期に比べ1億2百万円(41.1%)、経常利益は、持分法による投資利益7千2百万円の計上などにより、4億3千7百万円と前年同四半期に比べ1億3千9百万円(46.5%)、四半期純利益は、投資有価証券評価損5千万円の計上などがあったものの、3億2千9百万円と前年同四半期に比べ6千3百万円(23.6%)のそれぞれ増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

日本につきましては、機械設備の受注が電気機器関連企業向けでは減少しましたが、自動車関連企業向けが順調に推移し、また、自社製品であるウエルドシステムの取組みを強化したことで、売上高は80億9千6百万円と前年同四半期に比べ3千1百万円(0.3%)の増収となり、営業利益は2億3千8百万円と前年同四半期に比べ7千万円(42.0%)の増益となりました。

中国

中国につきましては、日系企業向けの機械設備および電気部品の販売が伸びたことなどにより、売上高は3億6千7百万円と前年同四半期に比べ2億2千3百万円(155.1%)の増収となり、営業利益は3千8百万円と前年同四半期に比べ3千1百万円(444.1%)の増益となりました。

タイ

タイにつきましては、自社製品であるウエルドシステムの拡販に注力し、売上高は3億7千8百万円と前年同四半期に比べ1億5千3百万円(67.9%)の増収となり、営業利益は5千7百万円と前年同四半期に比べ2千3百万円(70.5%)の増益となりました。

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

区 分	前 期 (平成24年4月30日現在)	当第2四半期 (平成24年10月31日現在)
資産の部		
流動資産	11,735	10,812
固定資産	3,674	3,526
有形固定資産	2,151	2,095
無形固定資産	193	204
投資その他の資産	1,330	1,226
資産合計	15,409	14,338

負債の部		
流動負債	6,981	5,700
固定負債	253	213
負債合計	7,235	5,914

純資産の部		
株主資本	8,306	8,589
資本金	1,028	1,028
資本剰余金	751	751
利益剰余金	6,682	6,965
自己株式	△154	△155
その他の包括利益累計額	△140	△176
その他有価証券評価差額金	16	10
為替換算調整勘定	△156	△186
少数株主持分	7	11
純資産合計	8,174	8,424
負債純資産合計	15,409	14,338

四半期連結損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

区 分	前第2四半期 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)	当第2四半期 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)
売上高	8,373	8,699
売上原価	7,167	7,319
売上総利益	1,206	1,379
販売費及び一般管理費	958	1,029
営業利益	248	350
営業外収益	99	103
営業外費用	48	16
経常利益	298	437
特別利益	73	2
特別損失	27	52
税金等調整前四半期純利益	344	388
法人税、住民税及び事業税	6	56
法人税等調整額	67	△2
法人税等合計	74	53
少数株主損益調整前四半期純利益	269	334
少数株主利益	2	4
四半期純利益	266	329

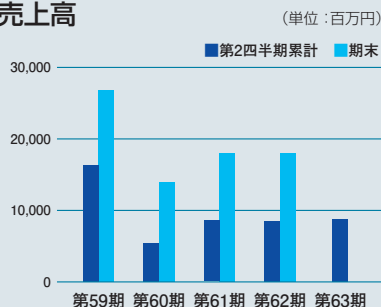
四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：百万円)

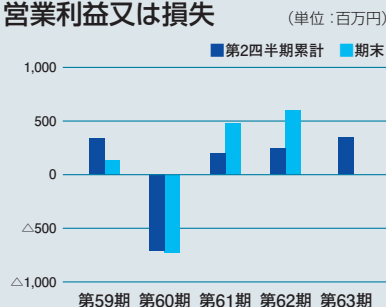
区 分	前第2四半期 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)	当第2四半期 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	125	406
投資活動によるキャッシュ・フロー	825	18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△601	△125
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	346	291
現金及び現金同等物の期首残高	2,543	2,769
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,890	3,060

連結財務ハイライト

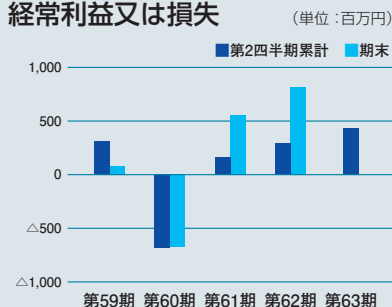
売上高



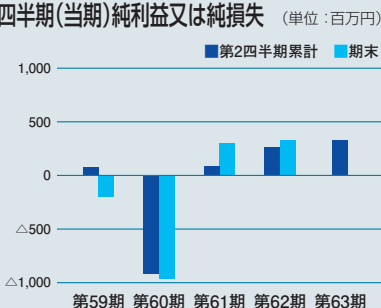
営業利益又は損失



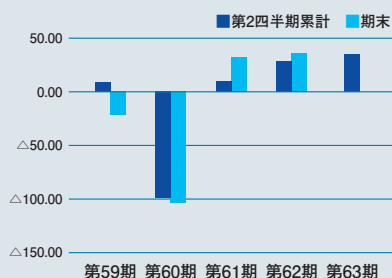
経常利益又は損失



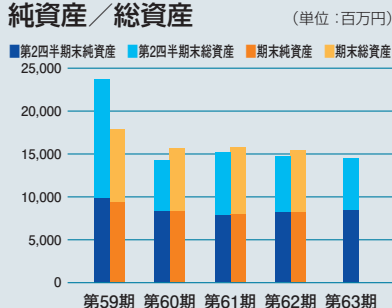
四半期(当期)純利益又は純損失



1株当たり四半期(当期)純利益又は純損失



純資産／総資産



区 分		第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
		平成21年4月期	平成22年4月期	平成23年4月期	平成24年4月期	平成25年4月期
売上高	第2四半期	16,284	5,405	8,597	8,373	8,699
	期 末	26,719	14,009	17,985	18,025	—
営業利益又は損失(△)	第2四半期	345	△709	200	248	350
	期 末	136	△726	484	604	—
経常利益又は損失(△)	第2四半期	316	△683	163	298	437
	期 末	83	△681	556	818	—
四半期(当期)純利益又は純損失(△)	第2四半期	79	△922	90	266	329
	期 末	△203	△965	303	333	—
1株当たり四半期(当期)純利益又は純損失(△)	第2四半期	8.53	△98.96	9.68	28.60	35.37
	期 末	△21.78	△103.59	32.58	35.79	—
純資産	第2四半期	9,880	8,305	7,753	8,117	8,424
	期 末	9,356	8,293	7,953	8,174	—
総資産	第2四半期	23,778	14,226	15,149	14,609	14,338
	期 末	17,912	15,722	15,810	15,409	—

会社・株式情報 (平成24年10月31日現在)

会社概要

商号	株式会社ナ・デックス (英文名/NADEX CO.,LTD.)
本店所在地	名古屋市中区古渡町9番27号 TEL (052) 323-2211
設立	昭和25年10月
資本金	1,028,078千円
上場金融商品取引所	大阪証券取引所JASDAQ (スタンダード) (証券コード:7435)
従業員数	339名(連結)、140名(単体)

役員

代表取締役社長	太田善教
常務取締役	福島國彦
取締役執行役員	渡邊修
取締役執行役員	高田寿之
常任監査役(常勤)	武田吉保
監査役	加藤正樹
監査役	伊藤豊彦
執行役員	遠藤一行
執行役員	森下宗春
執行役員	鈴木啓市

(注) 監査役加藤正樹氏および伊藤豊彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株式の状況

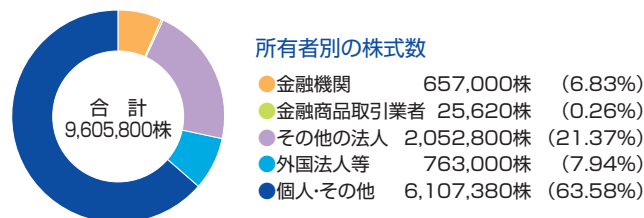
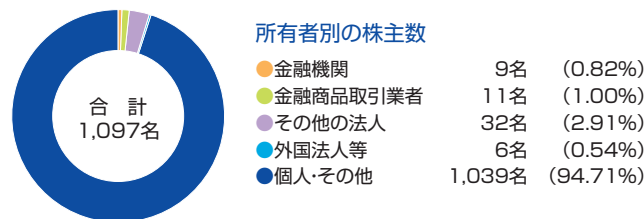
発行可能株式総数	40,125,000株
発行済株式の総数	9,605,800株 (自己株式282,515株を含む)
株主数	1,097名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.01
ピー・イー・フォー・フィリティロープライズストックファンド (プリンシパルオールセクターサポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	700,000	7.50
古川佳明	312,000	3.34
竹田和平	287,000	3.07
古川美智子	285,000	3.05
ナ・デックス社員持株会	213,000	2.28
古川雅隆	205,000	2.19
株式会社三井住友銀行	152,000	1.63
株式会社三菱東京UFJ銀行	144,000	1.54
尾崎博明	144,000	1.54

(注) 持株比率は、自己株式(282,515株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

株式分布状況



拠点



上海工場

中国



タイ工場

東南アジア



ミシガン工場

米州

国内

株式会社ナ・デックス

本社：名古屋市中区

東京支店：さいたま市大宮区

大阪支店：大阪市淀川区

技術センター：愛知県北名古屋市

株式会社ナ・デックスプロダクツ：岐阜県可児市

その他の拠点：横浜、岡山、北九州

海外

米国：ミシガン州

中国：上海、広州、天津、杭州

タイ：バンコク

インドネシア：チカラ



ナ・デックス
本社



ナ・デックス
プロダクツ工場



技術センター